

## ライバルや仲間の存在

今日の内容は、9月1日に紹介した高校野球の話の続きです。

9月1日に紹介した内容は、およそ以下のとおりです。

今年の全国高校野球選手権奈良県大会の決勝において、感染症のため登録メンバー12人を入れ替えた生駒高校に対し、対戦校の天理高校は、相手に失礼がないよう、全力で戦った。そして試合終了後には、淡々と整列し、お互いを称えた。さらに試合後に天理高校の監督から元の登録メンバーでの練習試合の提案があった。こうした心遣いに生駒高校は感銘を受け、天理高校に横断幕を寄贈。天理高校は、いただいた横断幕を甲子園球場に掲揚し、戦った。

そして昨日、天理高校と生駒高校の練習試合が実現しました。前回、決勝戦に出ることができなかった生駒高校の3年生全員が試合に出場しました。この試合においても、奈良県大会の時と同様、心温まるエピソードがいくつもあります。今日はそれを紹介します。

まず、試合前のシートノックでは、両校一緒に行ったそうです。普通は、各校で行うものですが、2チームが一緒に各ポジションにつきました。それが以下の写真です。



ちょっとただけではわかりにくいのですが、足元のストッキング（靴下の上に履いているすね部分のもの）をよく見ると、天理高校は紫色の単色、生駒高校は、赤と黄のストライプが入っていることや、胸の文字が「天理」「IKOMA」であることがわかります。試合前に相手チームと共に過ごすという、このような光景は普段ほとんど見られません。私はこれらの写真を見て、ほのぼのとした温かみを感じました。なお、試合中も相手を称えるシーンがあったそうです。もちろん、試合は真剣勝負でした。

試合は、一進一退の攻防でしたが、終盤に天理高校が逆転し、3-2で勝利しました。

この試合では、勝った天理高校選手がマウンドに集まり喜びを爆発させました。さらにそこに生駒高校の選手も集まり、歓喜の輪に入りました。勝敗関係なしに、この日戦った両チームの皆で喜びを分かち合いました。そして最後に一緒に記念撮影をしました。





試合後の談話です。

- ・天理高校：中村監督「野球の素晴らしさを両校の選手たちが改めて教えてくれた」
- ・生駒高校：北野監督「天理高校に、感謝しかありません。最高の試合になりました」
- ・天理高校：戸井主将「今日は全力勝負ができたので、勝ったときはマウンドに集まろうと思った。生駒の選手も来てくださって、そこは気持ちがつながっていると思った」
- ・生駒高校：熊田主将「最後の試合は3年生全員で笑って終わろうと思っていた。それができてよかった。最後の最後に全員一体となって『心ひとつ』というスローガンをまっとうできた。天理のみんなの今後の野球人生を、ぼくは応援していきたいと思います」

いかがでしょうか。改めてスポーツ等で競い合って高め合うことの良さや「ライバルや仲間」といった存在がいることの良さを感じます。ライバルがいることでよりいっそう自分を高めようとすることができます。仲間がいることで、一人ではくじけそうな時も踏ん張ることができます。そして一生懸命に活動することで、充実感や達成感を味わうことができます。

横断幕を前にして一緒に撮った写真は、皆、とても良い表情をしています。何かが終わった後、このような表情をすることができれば良いと思います。太宰府西中学校においても、最後に「良かった」「楽しかった」と生徒が言えるよう、子ども達の最高の笑顔を見ることができるよう、これからも教育活動に励み、子ども達を支援していきたいと思ひます。